

南砺市 SDGs 未来都市市民会議 議事録

- 【開催日時】 令和5年2月6日（月）10:00～11:30
- 【開催場所】 南砺市役所福光庁舎 401 会議室
- 【委員出席者】 松本久介委員、南眞司委員、杉木裕矢委員（委員長）、竹部俊恵委員
吉澤保幸委員（オンライン）、前田啓子委員、竹内真理子委員
山田智恵子委員、大河原晴子委員
- 【事務局】 南砺市エコビレッジ推進課 亀田秀一、藤井外史、齋藤卓巳

- 【会議次第】
1. 開会
 2. 議題
 - (1) SDGs 未来都市計画関連事業の実績・進捗状況について
 - (2) SDGs 達成に向けた普及啓発について（意見交換）
 3. その他
 4. 閉会

【会議概要】

議題（1）SDGs 未来都市計画関連事業の実績・進捗状況について
（事務局より説明）

[松本委員]

・今テレビでも SDGs が取り上げられているように、全国的にもう SDGs という言葉が知られていない状況ではない。富山県においても広く認知されており、どの自治体も SDGs に取り組んでいる。その中でも、南砺市は SDGs 未来都市に選ばれているので、トップリーダーとして富山県を引っ張っていく必要があると思う。

・31の地域づくり協議会でも SDGs の意識は至っていない。大鋸屋地域づくり協議会では、ごみステーションによる燃えるゴミと資源ごみの分別を行っているが、市民の意識はまだだと思ふ。生ごみについても、野菜のくずや落ち葉は肥料として畑にまくとか、徹底的にごみを減らしていくべき。

・南砺市らしいターゲットを絞り込んで、南砺市だから頑張るんだみたいな方策を、今回のような各種団体で頑張っている人たちがやらないといけない。他の市と同じようにやってもダメ。ターゲットを絞って「今年は南砺市民全員でこのことに取り組んでいきましょう」「小学校でこういうこと訴えて子どもたちにアピールしましょう」といった風に、あえてやってみせないと南砺市らしい取り組みにならない。資料4のように127項目の事業を頑張りますといってもダメ。

・有機農業に関しても、南砺市には根付いていないわけであって、都会からは有機農業をやりたくて移住してくるのに、その環境がない。

[南委員]

・私は南砺幸せ未来基金となんと未来支援センターという立場で、中間支援組織として南砺市のまちづくりを応援している。目的は、みんなが支え合うとか、全ての人に役割、生きがい、働きがいがあって、地域共生社会という温かいまちをつくることと、その温かいまちが持続可能になって、子どもとか孫の世代までちゃんと継続できる、そういうことを応援するのが我々の2つの団体の目標。

・地域共生社会に関しては、昨日も地域づくり協議会の取組発表会を聞いていて(全部というわけではないが) すごく前へ進んできていると感じた。高齢者だけでなく全世代が、こども、障がい者、引きこもり、生活困窮者など全部含めて、支え合うという地域共生社会を、来年度南砺市は重層的支援体制整備を本格的に作って準備していく。ここはある程度基礎ができると思っているが、持続可能な社会は非常に危ない。若者・女性は多く(市外へ)出ていき人口が減る。また、松本さんも言われた農業のことはすごく心配している。

・ここで、私からの提言を説明させていただく。

1、国が目指す「デジタル田園都市構想」では、地域が幸福度(ウェルビーイング)を高め、「女性や若者に選ばれる地域づくり」に努める必要があるとしている。目指す方向性に異論はないが、具体的に南砺市でどの様に作り上げるのかが問われる。都会では得られない価値を見出し創造することが求められ、各自治体が女性や若者がその取組みを生業として暮らし続ける地域を本気に作り出せるかである。

2、地下資源のない日本において、どの様に持続的に社会と経済を発展させ、環境との折り合いをつけてゆくかが問われている。中山間に位置する南砺市ではその解決策として、地域経済の根幹となり得る農業、林業や自然再生エネルギーも含めた資源を地産地消するような地域循環型社会の構築が求められる。創造すべきは、若者や女性達が農林業や自然再生エネルギーに関わり、工夫や知恵を出し充実した生活を過ごす仕組みである。

3、農業は南砺市の主幹産業と位置付けられているが、この数年間で急速な衰退が懸念される。農作物はどの様な状況下でも必要であるが、南砺市では農業を片手間でいい、販売をJA農協に依存し、生業にならず若者にとって魅力的な職業になっていない。南砺市の自然や環境にやさしい農業を目指し移住を希望する都会の若者は一定数存在する。しかし、JA農協の指導のもと大量の化学肥料や農薬、除草剤で行う現行の慣行農業に魅力はなく、環境にやさしく生業になり未来に希望を持てる農業の創造が求められる。

4、SDGsのSTEP3に示されている「行動を拡大し繋ぎ合わせる」を、地域で循環し自立する農業で構築する。地域住民が求める農作物や農加工品を地域の農業者、加工業者と販売者(地元ショッピングセンター等)が協力して創りあげてゆく。その際に大切なことは行政や市民も参加し、農業の再生という地域課題の解決をイコールパートナーとして取組む基盤整備である。その具体例として、藻谷浩介氏が全国で展開する「スマート・テロワール」の取組みがあり、その実現に向けて農業者・加工業者・販売者と行政及び市民等で構成され

る会議体の創設を提案する。

・今回やったことの評価をする場だと聞いていたが、そんな時間的な余裕はないと思うので、STEP 3に対する委員会としての提案をしたい。農政課とかが本気でやらないと、やれるように体制整備しないと、絵に描いた餅になるので、そこはお願いしたい。

[杉木委員]

提言の4番につきましては、となみ青年会議所にも農業のメンバーが2名いて、意見を持っているが、会議する場所も意見を聞く場所もなくて困っている。

[南委員]

休眠預金事業で、大鋸屋の営農組合が活性化に取り組んでいるが、そこだけではやっぱり難しい。若手農業者育成塾があるが、山田清志議員を塾長にして南砺市でやっている若手とかよくなる人たちの話をたくさん聞いたが、十分にやれる素地はあるが、そこを繋いだり、生産物について消費者をターゲットにやるという仕組みがない。だからターゲットを地域の中で循環させる仕組みづくりをすれば、ほんとによくなる若者たちがここに入ってこれるはず。

[杉木委員]

つなぎ合わせるとのことですが、意見はあるが意見を言う場所がないというのが現状だと思う。

[南委員]

こういう話がどうあるべきかという、グランドデザインは行政が描くべきだが、行政が全く描き切れていない。それを描きながら、みんなを巻き込んで作る協議体を提案してみんな合意をして作っていく、それは南砺市全体の行政の目標にしてもらえれば、私も応援したい。

[大河原委員]

・私がここに参加させていただくことの一つに、Funny's Kitchen でこども食堂をやっていることについて意見を求められることもあって、ここに参加させていただいているのかなと思っている。

・子育て中の家庭や子どもたちを見て思うのは、資料に書かれている事はやったらいいなということだと思うが、それは日常の不安や心配ごとがない中でないと、みんなのことや地域のことは考えにくいと思う。なので、こどもの権利や人権が大切にされていることが大事だと思うし、南砺市では食事に困るという子どもはあまりいないと思うが、毎日3食当たり前に食べられるという安心感というのも必要だし、それは子どもの権利でもある。

・私は、こども食堂というものをもっと地域づくり協議会の方とかがやってくれたり、居場所という意味でそういう場がたくさんあって、たくさんの大人の中で安心して暮らせる地域ができていったらいいなと思うし、SDGsの関心だったり、こういうことに取り組んでみようということが、応援し合って楽しんでできたらいいなと思う。

[松本委員]

NHKのニュースを見ていたら、こども食堂が非常に大事だと言っていた。賃金の格差だとか、パート労働者とか、不定期労働者とか、全国に600万人いる。本当はものすごく貧しい家庭がどんどん増えているという話なのに、こども食堂がある比率は、富山県は全国でビリから2、3番目。生活保護を申請する人は全国で一番少ない。生活保護を受けることが恥だ、とんでもない人たちだと思っている人がまだいる。隠れた貧困層にフードドライブで余った食品を提供するなど、やらないといけないことがたくさんある。

[竹内委員]

・metioというお店でフェアトレード商品を扱っている。フェアトレードは、作り手の方が自分たちで仕事を得て自立した暮らしができるように、物の価値に見合った対価で取引をするのが定義で、それ以外にも作り手の人たちの福祉面やこどもたちの教育面のサポートもしているというもの。

・生産者はアジアやアフリカや南米なので、南砺市のSDGs未来都市といたら関係ないように思われるが、世界にはたくさんの貧しい方たちがいて、働きづらかったり収入を得づらかったりする人がいるが、寄付やほどこしという形ではなくて、対等なパートナーとして取引をするという関係。物自体はいいものも多く、コーヒー、紅茶、チョコレート、砂糖などわたしたちにも身近なものも多いので、そういうものを日々の暮らしで選んだり、もっと知ってもらう機会があるといいなと思っている。

・フェアトレードは、環境に配慮した農業や、物の流通に関しても飛行機ではなく船便を使うといった取り組みをしているので、そういった背景がSDGsの目標に係わる取り組みをしているものを選ぶこと（エシカル消費）を意識する市民の方が増えると、世界に誇る一流の田舎につながるのではないかと思う。

[杉木委員]

先日、富山国際大学の生徒さんとSDGsアクションカードゲームxをした際に、講師が南砺市の方で、景品としてフェアトレード商品を持ってきてくれて周知していただいた。

[事務局]

適正価格というのは大事なことだと思っていて、農業についても、地域で作るとどうしても高くなるが、そういう価値は大事だと思う。地域でできたものは地域で、地域でできないものは適正価格で購入する。それぞれ適正価格が正しいものだと認識しなければいけないが、

収入があつての生活なので、収入のできる範囲でやることが大事。

議題（２）SDGs 達成に向けた普及啓発について

（事務局より説明）

[吉澤委員]

・この市民会議は、行政がやっていることを評価する場ではないと思っている。我々として、SDGs 未来都市をさらに推進していくためにどうアクションしていくか、それを提言していく場だと思って参加している。

・もう普及啓発のフェーズではなく、どうアクションするかというフェーズに入っていないと世界は待たないと思う。先週、環境中央審議会の委員長である武内先生と元環境次官の中井氏と話をしてきたが、国際的には、2030年までが大きな節目。ここを逃して1.5℃目標を外してしまうと、地球規模で我々が地球を取り残してしまうフェーズになりかねない、ということであった。大きな飛躍をとげないといけない。南砺市が大きな飛躍をするために何をしなければいけないのかということ、皆さんの意見を聞きながら色々考えていた。国際的にはSDGsの中で、次は生物多様性というフェーズに大きく動いている。政府の次期第6次環境基本計画の中にも、これまで我々も取り組んできた森里川海プロジェクトもきちんと取り組まないといけないとしている。政府は脱炭素化に向けて大きな舵を切っている。そのために何が大事かということ、そのイニシアチブは地域にある、と明確に言っている。SDGs目標の普及啓発を大前提として、“地域課題解決がSDGsの運動そのものになる”ということを市民に周知することが何よりも大事なことで、それを大きく言ってほしい。

・先日行われた第3回ローカルサミット next in 酒田・庄内の中で、一番明確に分かったことは、酒田の高校生が既に様々なアクションを行っているということだ。彼らは、その活動を市民を巻き込んでNPOを作ったりして、それらを酒田市の駅前で活動を見える化して、そこに市民が関わってきている、ということに感銘を受けた。酒田光陵高校は、工業高校、商業高校、女子高、普通科高校の4つが合体した高校だが、ビジネス教育学科の生徒はみんな自ら名刺を持っていて、高校生自らが社会に対して働きかけをしている。そんなアクションが南砺でも起こったらいいなと思っている。

・そこで、私の提言は、南砺が大きく一歩進むために、2つある。

1つは、政策としてより全面的に強化していただきたい。1つは、今、環境省が脱炭素先行地域を募集している。まだ全国で46の地域しか選ばれていないが、富山県、石川県からはまだ選ばれていない。中部地方は極めて遅れている。南砺でこれまでエコビレッジ構想として発信していることも含めて、脱炭素先行地域に手を挙げていただいて、再エネ交付金をうまく活用して地域の活性化、特に南砺では地域交通を含めて課題が大きいと思うので、そういうところに使ってもらいたいと考えている。それから、SDGsのパートナーを含めて、約3,000人の人と繋がっているという話であったが、それをさらに増やしていって、SDGs

実践マップ等を作って、市民に見える化してほしい。そして、それらを繋がり合うような形でどうやるか、地域づくり協議会から市民に落とし込む、あるいは学校に落とし込んで、活動している人がどんどん増えていってマップが真っ赤になるようなアクションをしてほしい。

もう1つは、世界でも言われているが、SDGsを実現するために主役は若者で、若者たちが自主的に動いていく必要がある。SDGs認知率も小中学生の方が大人よりも大きいと思う。若者たちをどういう形でアクションに結び付けるか。南砺幸せ未来基金で若者を支援するために基金を活用するということもできると思う。若者の実践をどう結び付けるか、つなぎ役としてどう関わってもらうか、皆さんに先導してやってもらいたい。そういうことを今回の市民会議で提言をして、我々としてフォローする形にできればと思う。

・資料に書いてあるような事業についてはどんどんやってくださいとしか言いようがない。それらを進めながら、SDGsを未来をつくるための地域内の世界標準の共通言語としてどう活用していくのか、それを行政が政策を強め、そこに市民がエンゲージメントして、そして何よりも、その主役が若者であるということを、この市民会議で提言できたら良いなと思う。

[山田委員]

・私は南砺市商工会女性部として出席しているが、個人でも会社でもなんとSDGsパートナーとして参加させていただいている。商工会としては、地域振興・発展のよき協力者、推進者、一般社会の福祉の増進、豊かなまちづくりの担い手になるというのが誓いの言葉として挙げられているが、それぞれのことを中心にして活動をしている。特に今コロナで大変悩んでいる商店の方もたくさんいらっしゃいますし、それぞれ事業承継の問題もある。商工会としても、市・県・国の補助を受けながら、どのように解決していくかということを中心にみんなで協力してやっている。個人としては、地球環境があつてのことだと思っているので、それに関する勉強会や説明会を協賛して開いて、興味を持っていただくような活動をやっている。会社としては、そういうことに関する本や子どもたちのためになる本を情報収集して、販売するように努めている。個人、会社、商工会女性部として、それぞれ3方面から何が必要かということを探しながらやっているところ。

[前田委員]

・「にほんご広場なんと」という、南砺で生活している外国人の日本語支援を12年ボランティアでやっている。SDGsというのが、産業とか地球とかそういうことだけでないのなら、「誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまち」には、南砺市で生活している外国人の課題にも取り組む必要に迫られていると思っている。

・資料4の南砺市の取り組みについて、外国人の観光客や外国人の児童・生徒の教育はあるが、外国人保護者や働き手としての外国人という大人への取り組みがあればいいなと思う。富山県内で南砺市の外国人の数は4番目に多い。以前は日本人の男性と結婚した外国人マ

マたちが多かったが、現在は技能実習生が多い。短期間在留する若い技能実習生だけでなく、南砺市民と結婚し長期間生活する外国人も増えているようだ。この地に根付いて、出産、子育て、就労もしているので、私たちと同じ生活をしている。しかし違うのは、私たちに比べて情報を得る機会が少ないということ。言葉の問題もある。言葉は覚えてなんとかやりとりはされるが、読み書きができないということに日本人は気付いていない。個人的な問題だと捉えるべきではなく、ここへの支援や配慮が忘れ去られているように思う。

・最近外国人で目につくのは若い実習生で、20、30代の独身者と、国に子どもや奥さんを置いてきている、もしくは子どもと旦那さんを置いてきている女性も多い。南砺市に欠かせない技能実習生を市民として認識し受け入れ、かかわる機会が足りないように思う。雇い主の会社などに任せきりであり、かかわり方に差が生じているようだ。

・南砺市で外国人の課題と思われるのは、生活者である外国人と一般市民の接点や地域とのつながりがあまりないことである。にほんご広場での経験で、こちらが頼りにすれば喜んで力になってくれることがあった。支援されるだけでない。支援者＝力になってくれるリソースとして、大事にしていく人たちであると思う。技能実習で3年、特定技能で5年、最近では会社からも頼られる。そういう例は、会社との関係だけでなく、地域活動などにもつながった経験も大きいようだ。

・家庭を持つ外国人も変わらず増えていて、子育てや仕事や老後に苦勞していると聞く。学校の文化、学習など外国人にとっては、理解が難しいことが多い。登校拒否に悩む家庭もある。解決方法や相談窓口がわからず「どうせ私は外国人だからダメ」と言って落ち込む方もおられる。

・南砺市の未来に外国人は欠かせないと思う。同じ市民という視線で困りごと解消への支援の手が伸ばされれば、住みやすく安心できる南砺市生活をすごせるのだと思う。

[杉木委員]

今の話は、ジェンダーや多様性という部分もあるので、かなり重要な話であると思う。

[南委員]

外国人の多文化共生社会については、南砺市は遅れていると思う。南砺幸せ未来基金で休眠預金事業というのを東近江市と雲南市と一緒にやっていて、雲南市はものすごく頑張っている。我々が分からないことは、ここでやっていることを学びながら取り入れながら一緒に作っていくということも、まちづくり、SDGsにつながるので、参考にしてもらえればと思う。

[前田委員]

コロナになってから ZOOM でいろんな研修会に参加可能になり、各地の取り組みや実践を知り勉強になっているが、コロナの前に文化庁の地域日本語教育研修で私の実践報告をしたり、他の取り組みを聞いたりしたが、すごく虚しい思いもした。他地域の大方は自治体が

主体になっていたからだ。個人ボランティアに任せるのではなく、自治体でやらないと進まないと思う。

[南委員]

自治体ではできない。思いがある人が前に進まないといけない。それに対して自治体とか関係者が思いっきり応援できる体制が不十分だと思う。そういうことをやっているところを見たらよいと思う。

[竹部委員]

・元教育委員、あるいは元教員という立場でお話をさせていただければと思う。前回のこの委員会のときにお話をしたことの中に、学校そのものが SDGs を学ぶ場になればいいなと申し上げていた。つまり学校というのは特別な場所ではなくて、小社会であると考えれば、学校で展開されている様々な活動が、SDGs というものさしに当ててみたら、どういう風に見えるか、という働きかけが学校にあっても良いのではないか。先ほどから取り組みの中に、子どもたちへの取り組みがたくさんあってありがたいと思っているが、吉澤さんのお話の中でもあったように支えるのは若者たちだというのがあって、じゃあそれを支える大人への働きかけはどうなっているのかなというのがある。学校への働きかけについて、子どもたちへの働きかけは見えるが、それを支える教員への働きかけというのがないのではないか。先生たちが、SDGs の重要性や、SDGs のものさしに当ててみればすでに展開していることもあるし不十分なところもあるし、子どもたちを育てるうえで南砺市の小中学校で SDGs を強く意識しながら、学校教育を展開しているという風になればよいなと考えている。学校の先生も南砺市の職員であるので、学校には遠慮することなく、南砺市で子どもたちを育てている市の職員として、支出としてどんなふうに SDGs を身につけていってもらうか、南砺市の先生方はそういうところを強く意識した教育活動を展開していただく、そういったことが南砺市らしさのひとつになるのではないかと思う。

・先日、子どもの権利条例が制定されたということでパンフレットが配布されたが、これは SDGs に大いに関係あると思うが、どこにも SDGs と書いていない。SDGs のロゴを書いてくださいと教育委員の時に提案したが、どこにも書いていない。受け取った方が、国際条約と南砺市が何の関係があるんだとなったときに、SDGs というものさしを当てたときに、子どもの権利条例は本当に大事なことで、子どもとのかかわり、SDGs とのかかわりが、具体的な形として子どもの権利条例ができたということで、南砺市らしい具体例の一つになる。

・既にやっていることの中で、SDGs の願いにかなっていることがたくさんある。そのことをきちんと示していただく、そのために小中学生、あるいは若者を支える大人への働きかけというのをもっとやっていただけたら、もっと良い南砺市になるのではないかと思う。

[松本委員]

先ほど吉澤さんの提言があったと思うが、それに全く同感する。市民会議は、国から SDGs

未来都市と名誉ある指定を受けて、県下の最先端の取り組みを進めてくださいと言われて、市民会議を立ち上げて意見を申し上げている。皆さんからの意見は、どの話も重要な要素であり、市役所が出している120~130の事業の評価は置いといて、移住者が増えたからよかったとかチェックするために集まっているわけではなくて、吉澤さんがおっしゃるように、ここ1~2年が勝負で、2030年まであと数年しかない。難しいことを市長に提言するわけでもなく、市長に言うというよりも市民にアピールする。ここ2年ほどこういうことに全力をあげて取り組みましょう、というように。箇条書きでよいので、こんなことに真剣に取り組んでほしい、こういうことをやるべきじゃないか、みたいなのを各委員から出してもらってまとめる形でもいいので、こういうことを市長に提言をして、市民の皆さんに“市民会議ではこういうことを提案しています。みんなでやりましょうよ”と伝えるのが良いのではないかと。皆さんいい話をしていただいた。そういうことを提言して、それをみんなで頑張ればよい。“見える化”して、こういうことに軸足を置いて一生懸命やろうぜということが見えてこないといけない。SDGs知っていますよという話ではダメで、私たちの行動が何に繋がるのかということ。吉澤さんの話でも地域づくり協議会の地域課題に取り組むことそのものがSDGsに取り組むということとあったが、私もなるほどと感じた。そうは言っても何かに取り組んでもらわないと前に進まないから、提言書みたいなものが3月末までに間に合うかどうか分からないが、別に4月またいでも構わないと思うが、是非委員長に頑張ってもらいたい。今日皆さんが話していただいたようにたくさんテーマを抱えているわけですから、箇条書きで書けると思うから、そこに事務局や委員長の想いを絡めて、提言書を出したらいいんじゃないかと思う。市民会議が動かないと、行政ベースで役所仕事みたいなことを積み上げていってしまうかもしれない。市民に撃てば響くような提言として、こんなことに取り組んだらいかがですか、取り組んでほしい、取り組むべきじゃないですかという提案をする。それをやるかやらないかは行政であり、それを見たそれぞれの団体がどう思うかという話で、提言したことが全部守られるとか全部実現に繋がるとかそういうことではなくて、何をやるのかということをもっと市民に分かるようにしたほうが良いと思う。今日は時間がないので、それぞれ持ち帰って、メールなり、市役所の様式にいくつか課題を書いてほしいとか、フィードバックして集めて、委員長と詰めながら、提言書にまとめてほしい。もう1回集まる必要があるのかもしれない。是非そんな風な形で試しにやってみたらどうかと思う。

[杉木委員]

最後に私の方から思っていることを話したいと思う。SDGs未来都市として変わっていくべきなのは、紙資料が多いので、紙資料のデータ化はしなくてはいけないと思う。また、STEP3の行動を拡大し繋ぎ合わせるということで、ブース出展とかいろんなところで活躍しているのは分かるが、与えるだけでなくキャッチボールをしていただきたいと思っている。いろんな世代があり、ブース出展は与えるだけで市民が思っていることは分からないので、市民会議であったり、会議と言ったら若者はたぶん来ないので、ミーティングであったり、好きなものを語れる話し合いをして、みんなの意見が通るまちになればいいのかなと思う。

[事務局]

委員の皆様から提言も含めて意見をいただきましてありがとうございました。松本委員がおっしゃったように、折角いただいた意見が空中で消えていくのは勿体ない話ばかりでしたので、何かの形で見えるようにさせていただいて、提言とまで言えるか分からないが、提案という形でまとめさせていただきたいと思っている。松本委員からはそれぞれ持ち帰ってという話もありましたが、一旦こちらでまとめさせていただいて、皆さんに見てもらって、分かりやすい形になっている、想いが入った形になっているかとういうのを確認させていただいて、1枚作らせていただきたいと思います。その形で、市長も含めて庁内に広く共有させていただきたい。SDGsの計画には、前田さんがおっしゃっていただいたような多文化共生という部分は薄い部分と認識しているので、そういったことも含めて行政でもできること、一緒にやっていただけることも含めて、考えていくきっかけになる会議になったのではないかと思う。そういう形でまとめさせていただいて、皆様にお返しして、何回か意見交換させていただくかもしれませんが、またよろしくお願ひしたいと思っています。

(イベントチラシについて案内)

[杉木委員]

以上で本日の会議を終了します。ありがとうございました。